

**新・公立宇出津総合病院改革プラン  
自己点検、自己評価書  
(平成30年度分)**

令和元年10月

新改革プラン評価委員会

## はじめに

総務省より平成26年度に「新・公立病院改革ガイドライン」が通知されたことにより、新・公立宇出津総合病院改革プランを平成28年度に策定いたしました。これにより、病院機能の見直しや、病院事業の経営の改革に取り組み、そのプランを住民に対して速やかに公表するとともに、自己点検及び自己評価書を作成し、有識者や地域住民の参加を得て設置した評価委員会に見直し等をするなどして、評価の客観性を確保することとなりました。

今回、平成29年度の決算を受けて、新・公立宇出津総合病院新改革プランの自己点検と自己評価を行ったことから、その結果を報告いたします。

なお、評価に当たっては、次の方法により行いました。

### 数値目標に対する評価

区 分	評価の内容
A	目標達成値が100以上の場合
B	目標達成値が95以上で100未満の場合
C	目標達成値が95未満の場合

※目標達成値＝実績値÷目標値×100

※目標数値が低いほど経営状況が良い場合(人件費比率等)は、目標値を実績値に除する数値を目標達成値とした。

### 取組状況に対する評価

区 分	評価の内容
A	評価取組にあげた取組は、達成した。
B	評価取組にあげた取組は、一部達成した。
C	評価取組にあげた取組は、達成できなかった。

今後も地域の基幹病院として、町民の命と健康を守り、安定した医療を継続して提供するため、経営改善の取り組みを強化し、改革プランの目標達成に向け努力いたします。

## 1 医療機能等指標に係る数値目標

### (ア)一般病床の平均在院日数

(単位:日)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
16.7	19日以内	16.6	114	A	19日以内

#### 【平成30年度自己評価】

平均在院日数が0.1日短縮となり病床回転率は良好となった。令和元年度も退院調整を行い、引き続き19日以内とします。

### (イ)地域包括ケア病床の在宅復帰率

(単位:%)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
90.9	90.0	87.4	97	B	90.0

#### 【平成30年度自己評価】

在宅・介護施設以外の所に退院したため、昨年度より在宅復帰率が減少した。令和元年度も90%とします。

### (ウ)救急搬送受入件数

(単位:件)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
504	500	525	105	A	500

#### 【平成30年度自己評価】

救急搬送受入件数は21件増となり、地域の救急病院として救急受入体制を堅持した。令和元年度も500件とします。

### (エ)オープン検査件数

(単位:件)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
41	90	35	39	C	50

#### 【平成30年度自己評価】

オープン検査件数については、開業医にかかる患者の病状により検査件数の減によるものと思われ、令和元年度は50件と変更します。

(オ)訪問看護実人数

(単位:人)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
38	40	32	80	C	40

【平成30年度自己評価】

老老介護や独居高齢者が多く、また在宅サービス不足もあり家族の施設希望が多く、訪問看護実人数が減少した。令和元年度も40人とします。

(カ)訪問看護延人数

(単位:人)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
955	980	744	76	C	980

【平成30年度自己評価】

訪問看護延人数は、昨年度比較211人減少となった。これは訪問患者実人数の6人の減少によるものや、高齢者の多くが主疾患から多疾患の増悪により医療依存度が高くなり入院するケースが増え、訪問看護延人数が減少した。令和元年度も980人とします。

## 2 経営指標に係る数値目標

(ア) 経常収支比率 (経常収入/経常支出) (単位:%)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
102.7	103.0	102.0	99	B	103.0

【平成30年度自己評価】

収益では、主に循環器科の医師が常勤から非常勤(週1回)に変更となったことで医業収益が減少し、支出では給与費や材料費及び減価償却費が減少し経常収支比率で0.7%減少した。令和元年度も103%とします。

(イ) 医業収支比率 (医業収入/医業支出) (単位:%)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
87.0	92.0	89.2	97	B	92.0

【平成30年度自己評価】

医業収支比率は、給与費や材料費及び減価償却費の減少で2.2%回復した。令和元年度も92%とします。

(ウ) 人件費比率(職員給与費対医業収益比率) (単位:%)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
59.2	57%以下	59.6	96	B	57%以下

【平成30年度自己評価】

職員9名の減少で職員給与費が削減されたが、外来及び入院収益が減少したことで人件費比率は0.4%増加となった。令和元年度も57%以下とします。

(エ) 後発医薬品比率 (単位:%)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
22.4	24.0	26.8	112	A	27.0

【平成30年度自己評価】

後発医薬品比率は、前年度比で4.4%増となった。令和元年度は、後発医薬品の切替を進めるため、院内薬事委員会事前に資料を公開することに変更し、令和元年度は、3%増の27%とします。

## (オ)新入院患者数

(単位:人)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
1,936	1,950	1,934	99	B	1,950

## 【平成30年度自己評価】

整形外科、循環器科及び眼科で新入院患者が減少となった。令和元年度も1,950人とします。

## (カ)病床利用率

(単位:%)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
74.0	77.0	73.1	95	B	90.0

## 【平成30年度自己評価】

外科や整形外科及び循環器科の入院延患者が減少したことで病床利用率の減少につながった。令和元年度は、病床数が100床と変更したため、病床利用率を90%と変更します。

## (キ)維持透析患者数

(単位:人)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
42	43	43	100	A	45

## 【平成30年度自己評価】

維持透析患者数は、4人の患者が透析導入された。令和元年度は45人の患者受入態勢とします。

## (ク)早期リハビリテーション加算算定単位数

(単位:単位)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
6,483	6,600	6,860	104	A	6,800

## 【平成30年度自己評価】

地域包括ケア病床の入床で算定できない場合はあったが、平成30年度は若干の増加となった。今年度は地域包括ケア病床の増床で早期から入床となるため、加算算定単位数は減少傾向となることが考えられるが、新規患者の受入により加算算定単位6,800単位以上とします。

(ケ)常勤医師数 (単位:人)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
16	15	16	107	A	15

【平成30年度自己評価】

常勤医師数は、目標値を達成した。令和元年度も15人とします。

(コ)認知症ケア加算対象の看護師数 (単位:人)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
16	19	19	100	A	21

【平成30年度自己評価】

認知症ケア加算対象の看護師数は19人となった。令和元年度は2人の看護師を研修させ21人とします。

(サ)セラピスト数 (理学療法士及び作業療法士) (単位:人)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
5	6	5	83	C	6

【平成30年度自己評価】

地域包括ケア病床の20床の増床は実現しなかったが、令和元年度は20床となり、セラピスト数を6人とします。

(シ)薬剤師数 (単位:人)

平成29年度 実績	平成30年度		目標 達成値	評価	令和元年度 目標
	目標	実績			
4	4	4	100	A	4

【平成30年度自己評価】

薬剤師は目標値を達成した。令和元年度は4人とします。

### 3 目標達成に向けた具体的な取組

#### (ア) 民間的経営手法の導入

目標項目	評価取組	評価
医療機器保守契約更新の見直し	・医療機器保守契約の更新は、必ず検証を行い協議する。	A

#### 【平成 30 年度自己評価】

医療機器保守契約は機器ごとに検証し、そのうえで保守契約を締結した。

目標項目	評価取組	評価
給食委託について	・栄養管理室と給食委託の可否について協議する。	A

#### 【平成 30 年度自己評価】

業者数社から見積書を徴収し協議を行ったところ、地元食材消費の面を考え、給食委託を行わないこととした。

目標項目	評価取組	評価
検査委託範囲について	・委託検査から院内検査への取込み、新規実施検査を行う。 ・臨床検査適正化委員会を年 2 回開催し、各科の医師や医療スタッフと検査委託について協議する。	B

#### 【平成 30 年度自己評価】

臨床検査適正委員会を年 2 回開催し、検査室の運営や検査委託について協議した。新規実施検査については、高感度トロポニン T について令和元年度に実施することとした。

#### (イ) 事業規模・事業形態の見直し

目標項目	評価取組	評価
病床利用率 77% 超えの達成に向けて	・地域包括ケア病床(14 床)のベッドコントロールを行い、地域包括ケア病床利用率 85% とする。 ・病床利用率 77% 超えの達成	C

#### 【平成 30 年度自己評価】

病床利用率は 73.1%。そのうち地域包括ケア病床利用率は、77%であった。令和元年度は、病床数が100床に変更となったことで病床利用率 90%とし、理学療法士の増員を活用し、地域包括ケア病床率でも 85%超えとします。



目標項目	評価取組	評価
地域包括ケア病床の増床について	・地域包括ケア病床利用率 85%以上の達成。	C

【平成 30 年度自己評価】

週 1 回、地域包括カンファレンスで対象患者を選択するが、リハビリの単位数もあり、地域包括ケア病床利用率は 77%となった。令和元年度も、理学療法士の増員活用で地域包括ケア病床利用率 85%超えとします。

(ウ) 経費削減・抑制対策

目標項目	評価取組	評価
後発医薬品への切替促進について	・院内採用薬品については、後発医薬品に変更可能なものは、順次切替を進める	A

【平成 30 年度自己評価】

汎用されている注射剤で後発医薬品(GE)に切替し、後発医薬品の切替を進めた。令和元年度も、後発医薬品に変更可能なものは切替を進めていく。

目標項目	評価取組	評価
同種同効薬剤の一本化について	・院内薬事委員会は 2 回以上開催し、同種同効薬剤を整理し、採用薬の削減に努める。 ・同種同効果薬剤の一本化を図る。	B

【平成 30 年度自己評価】

使用頻度の少ない薬品は整理し、採用薬の削減を図ったが同種同効薬剤の一本化は、進まなかった。令和元年度は、院内薬事委員会事前に資料を公開することに変更し、同種同効薬剤の一本化を進める。

目標項目	評価取組	評価
退職職員を非常勤職員切替について	・退職職員の中から非常勤職員を採用し、医療経験豊富な職員を引き続き雇用する。	A

【平成 30 年度自己評価】

退職者の方で希望する職員については、再任用及び非常勤職員として採用した。再任用職員についても年齢等で区切り、一部を非常勤職員として採用した。

(エ) 収入増加・確保対策

目標項目	評価取組	評価
各種加算項目の見直し及び取得について	・薬剤指導管理料の再取得 ・外来化学療法加算1の取得 ・認知症ケア加算2からケア加算1の取得。	B

【平成 30 年度自己評価】

外来化学療法加算1については体制を整備し取得した。しかし薬剤指導管理加算については、建築法及び消防法による改築コストを勘案し、取得は難しいという結果となった。また認知症ケア加算1についても、取得できなかった。令和元年度は、認知症ケア加算1の取得とします。

目標項目	評価取組	評価
透析需要増への対応	・需要が増となった場合、看護師の配置や透析診療日等について協議する。	A

【平成 30 年度自己評価】

4名の透析導入や受入患者7名により透析需要が高まったため、看護師の役割分担や透析診療日の日程調整を行った。

目標項目	評価取組	評価
看護基準 10 対 1 の堅持	・看護師数、勤務時間の調整、看護必要度 15%をクリアする。 ・看護必要度院内評価者研修に4名を参加させ、院内研修会を行う。	A

【平成 30 年度自己評価】

外来病棟応援体制をとり、看護師数、勤務時間の調整を行った。看護必要度研修会には、4名の看護師を参加させ、院内研修会を開催し知識向上を図った。また必要度委員会による必要度評価監査を行い、正確な評価に向けて活動し、看護必要度は19%と施設基準をクリアした。

目標項目	評価取組	評価
認知症ケア加算2から認知症ケア加算1の取得に向けて	・認知症ケアチームの立ち上げ。 ・週一回程度のカンファレンス及びラウンドの実施。 ・認知症ケアに関する研修の開催。	B

【平成 30 年度自己評価】

認知症ケアに関する研修を開催した。令和元年度は認知症ケアチームの立ち上げやラウンド及びカンファレンスを実施し、認知症ケア加算1を取得します。

(オ)その他

目標項目	評価取組	評価
薬剤師修学資金の貸与の促進について	・体験学習に参加された中高生に対し、薬剤師修学資金について説明を行う。 ・金沢大学、北陸大学に薬剤師修学資金のパンフレットで、募集の周知を行う。	A

【平成 30 年度自己評価】

体験学習に参加した中高生に対し、薬剤師修学資金について説明を行った。金沢大学、北陸大学の薬学部を訪問し、薬剤師修学資金の説明及び募集の周知を行った。

目標項目	評価取組	評価
紹介状ありの患者様の優先診察について	・紹介状のある患者様については、紹介状を総合窓口、外来窓口で提出してもらうことで、優先診察を行っているという情報の発信を行う。	A

【平成 30 年度自己評価】

紹介状のある患者様は優先的に診察を受けていただいた。令和元年度も紹介状をお持ちの患者様についての情報は、総合窓口及び各診療科窓口掲示物で発信します。

(カ)職員の意識改革

目標項目	評価取組	評価
医局員への指導体制の充実について	・加算体制に応じた基準の確認や、病院内のルールの徹底、医療事故防止等の観点から、医局員に対する指導体制を強化する。	A

【平成 30 年度自己評価】

加算基準の確認、院内のルール及び医療事故防止に関しては、医局会や委員会で医局員に対し指導した。

目標項目	評価取組	評価
各科症例検討会及び医師会合同症例検討会の拡充について	・クリニカルラウンド等により、能登北部医療圏の医療機関と症例検討会を行うことにより、連携を密にし、地域医療の推進を図る。	A

【平成 30 年度自己評価】

年 8 回のクリニカルラウンドにより症例検討会を行い、医師、研修医を含め延べ 45 名が出席し地域医療の推進を図った。

目標項目	評価取組	評価
目標管理及び意識改革を目的とした各部門ミーティングの実施について	・改革プランワーキンググループ会議を、年2回開催し、各職種部門のミーティングを実施し、数値目標や取組状況について点検、確認を行う。	A

【平成30年度自己評価】

改革プランワーキンググループ会議を2回開催し、各職種部門においてミーティングを実施し、目標達成に向けて改革プランの点検や確認を行った。

目標項目	評価取組	評価
職員研修機会の拡充について	・接遇、医療安全、感染研修やeラーニングの実施。 ・看護師ファースト、セカンドレベル研修の実施。 ・認知症看護研修の実施。 ・認定看護師研修の実施。	B

【平成30年度自己評価】

接遇研修(年1回)、医療安全研修(年2回)、感染研修(年2回)の実施はもちろん、看護師ファーストレベル研修(1名)、認知症看護研修(5名)の職員研修を行った。認定看護師研修については、実施しなかった。令和元年度は、認定看護師が常勤しているため、認定看護師研修の実施は、評価取組から除外します。

目標項目	評価取組	評価
経営状況や直面している諸問題の、全職員の共通認識する情報発信について	・経営状況説明会を年2回開催し、その中で、経営状況や諸問題を、全職員に情報を発信する。 ・病院幹部や町幹部には、経営改善会議を2回開催し、経営状況や諸問題について、情報を発信する。	A

【平成30年度自己評価】

町長をはじめとした町幹部には、経営改善会議を6月と11月に開催し、病院全職員に対しては、7月に経営状況説明会を2回開催し、情報の発信を行った。